

50年以上の長きにわたり、市民に親しまれてきた伊賀市南庁舎は、平成30年12月末をもって市役所庁舎としての役目を終えました。

庁舎機能の移転は、市街地周辺を中心に以後の市民生活や事業承継、観光の取り組みなどに少なからず影響が及ぶことを心配する声が聞かれます。「伊賀市南庁舎整備事業」は、南庁舎を保存・改修し、今まで以

上の賑わいを生み出す場所を創っていこうとするものです。

賑わいの灯りを消さないように、伊賀市が今まで以上に元気になるように取り組む事業の内容について、現在の状況、考え方などをお知らせします。

## ■南庁舎利活用案

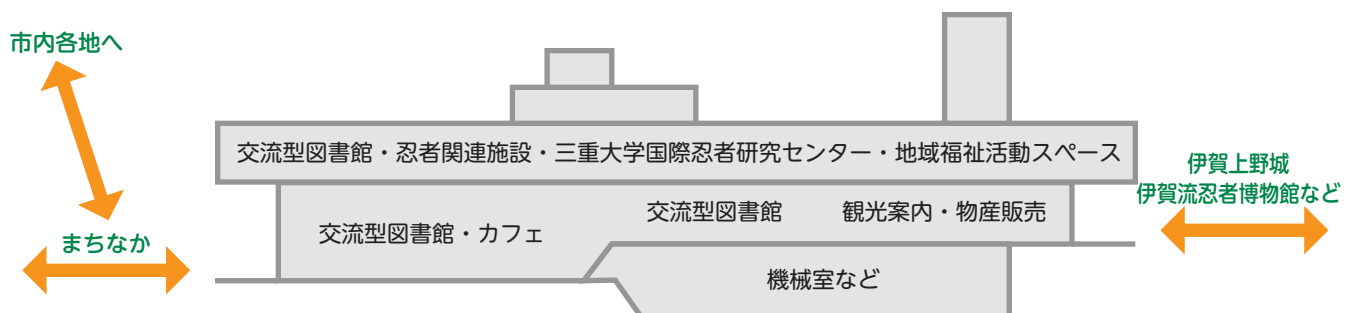
現在、左記の3つのコンセプトをはじめ、公共施設最適化方針や地方創生、財政負担軽減などの観点も加味しながら、南庁舎に配置する機能や規模などを検討し、最適と考えられる機能配置案を提案しています。

多くの観光客が訪れる伊賀上野城や伊賀流忍者博物館、芭蕉翁記念館、だんじり会館、伊賀伝統伝承館などから南庁舎を経由してまちなかへ、まちなかから電車やバスなどを利用して市内各地へと賑わいが広がっていくことが、伊賀市全域の賑わいづくりになり、南庁舎がこうした地域の魅力をしっかりと発信する役割を果たすべきであると考えています。

## ■事業スケジュール

南庁舎が賑わい拠点として生まれ変わるには、今後「実施設計業務」、「改修工事」を行う必要があり、これらの事業期間には約2年を要します。

今後、1日も早く賑わいづくりの取り組みをスタートし、庁舎移転後の空白期間ができる限り短くなるよう努めていきたいと考えています。



## ●伊賀市南庁舎の特徴

南庁舎は、国史跡上野城跡の丘陵の山裾と城下町をつなぐように、また隣接する建築物に合わせるように低層で計画され、地形に沿い北側に中地階、中2階を設けることで1階部分の天井高を確保し、明るく開放的な空間を作っています。

ピロティ、屋上庭園、水平連続窓などといったモダニズム建築の特徴を現代に継承しており、旧城下町の都市景観に合わせた近代建築群の代表例として「日本の20世紀遺産20選(2017年)」に選出された際の重要な構成要素として後世に伝えていくべき価値を有した建物です。

(写真は竣工当時のもの)



# 賑わいの 賑 灯りをともすために

～伊賀市南庁舎整備事業の概要～

【問い合わせ】 中心市街地推進課

☎ 22-9825 FAX 22-9628 ✉ shigaichi@city.iga.lg.jp

## 南庁舎利活用のコンセプト

南庁舎を利活用するにあたって、次の3つのコンセプトを大切にしていきたいと考えています。

### 現在以上の賑わいを生み出すこと

南庁舎を市役所として利用していたとき、市民を中心に年間約 19 万人の利用者があり、毎日約 500 人の職員、関係者が勤務していました。

新しい施設ではこれを上回る賑わいを創り出していく必要があります、それにふさわしい機能を配置することが求められます。



### 7分の7の賑わいを生み出すこと



庁舎としては7分の5（1週間のうち平日の5日間）を中心に多くの利用がありましたが、これからは残りの7分の2（休日等）も賑わう施設にする必要があります。

市民向けの機能と、観光客・来街者向けの機能をバランスよく配置し、相互に連携していかなければなりません。

### この場所で完結させないこと

賑わいづくりは、南庁舎だけでできるものではありません。

南庁舎周辺には城下町の歴史的景観をはじめ、地域経済を支える商業、観光施設などがあり、市全域にも多数の魅力あるスポットや地域独自の取り組みがあります。

南庁舎はこれらのゲートウェイ（出入口）として機能するべきで、この場所ですべてを完結させてはいけません。



## ●伊賀市南庁舎の沿革

### ～建築的視点から～

- ▼昭和 39（1964）年 12 月
  - ・上野市庁舎として竣工（設計者：坂倉準三）
- ▼平成 16（2004）年 11 月
  - ・伊賀市誕生
  - ・伊賀市本庁舎となる
- ▼平成 26（2014）年
  - ・「日本におけるモダンムーブメントの建築 184 選」に選出される（Docomomo-Japan）
- ▼平成 29（2017）年 12 月
  - ・「日本の 20 世紀遺産 20 選」に選出される（日本イコモス国内委員会）

### ～伊賀市南庁舎整備事業として～

- ▼平成 26（2014）年 9 月
  - ・庁舎機能の移転が決定
- ▼平成 27（2015）年 8 月
  - ・南庁舎の耐震性検証（第3者委員会）
- ▼平成 28（2016）年 3 月
  - ・現庁舎地利活用提言（市議会）
  - ・賑わい創出グランドデザイン（賑わい協議会）
- ▼平成 29（2017）年 8 月
  - ・南庁舎の耐久性調査実施
- ▼平成 30（2018）年 8 月
  - ・南庁舎利活用提案（基本設計成果）
- ▼平成 30（2018）年 9 月
  - ・南庁舎利活用関連予算否決